

演題番号は各自、ご記入ください

ヘッダ-入力となります

日本語タイトル
日本語MS明朝・半角英数Century
18ポイント太字

02

日本人の健康の状況

—国際比較に見る日本人の健康—

Accuracy Improvement of Annulus Size Measurement in Transcatheter Aortic Replacement

1)大阪大学医学部附属病院 2)大阪市立総合医療センター

○中村幸夫¹, 川原雅昭¹, 福西康修², 伊泉哲雄²

英語タイトル
半角英数字 (Century)
14~16ポイント太字

【目的】

世界保健機関 (World Health Organization : WHO) 標の資料によると、我が国の平均寿命 (注) は 81.9

【方法】

- (1)高齢者の医療・保健・福祉分野における疾病、健康ハビリの実態、健康度に応じた高齢者に対する健康維持あるいは健康低下防止方策を様々な角度から把握した。
- (2)検査・診断機器及びリハビリ・介護等に関する機器類の活用調査総合病院、福祉施設を対象に、使用している検査・診断機器及びリハビリ・介護等に関する機器・器具を調査する。
- (3)疾病、健康志向等の傾向と検査・診断等機器類との相関度分析をすれば、使用頻度が高まるとともに広く導入される。従って、疾病等に関する機器類の今後の変化を推測できる。

【結果】

我が国の保健医療対策が高い成果を上げる一方で、新たな健康課題も出現してきている。例えば物流の発展により多様化する食品の安全性の確保、航空機の発達をもたらした移動の高速化に対応した広域な感染症対策、経済の低迷等による自殺増加への対策などである。また、従来からある課題であるが、栄養・食生活、身体活動・運動等の生活習慣によって生じた生活習慣病の増加が国民の大きな関心事となっている。さらに、近年の医療技術の顕著な発展は治療成績の向上と疾病の克服に大きく貢献してきたが、技術の複雑化と多様化は医療従事者の負担も増大させ、安全面への取組みの重要性が増している。加えて、国民の健康への関心は、寿命の長さだけでなく、生活の質にも配慮したいいわゆる「健康寿命」にも向けられるようになり、健康増進に関わる商品やサービスの需要は増加しており、その質と量を確保することも課題になってきている。このような状況を踏まえ、健康

施設名・発表者・共同演者
MS明朝・Century 10~11ポイント太字
学術大会の抄録集と同様に記載してください。

本文
日本語MS明朝・半角英数Century
10.5~11ポイント

グラフ・図説は、カラーでも
グレースケールでもOKです。
文字が認識できるようにして
ください。

容量の大きいファイルは、
圧縮してください。
ファイル容量制限は5MBです

健康維持には、想定し得る各種の健康リスク (要因) が引き起こす健康リスクの大きさを定量化する必要がある。健康リスクの比較に用いられている。

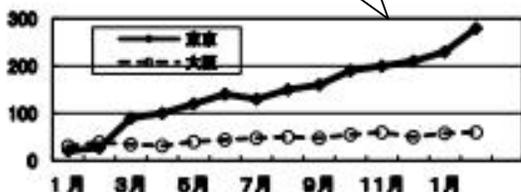


Fig.2 東京と大阪の比較

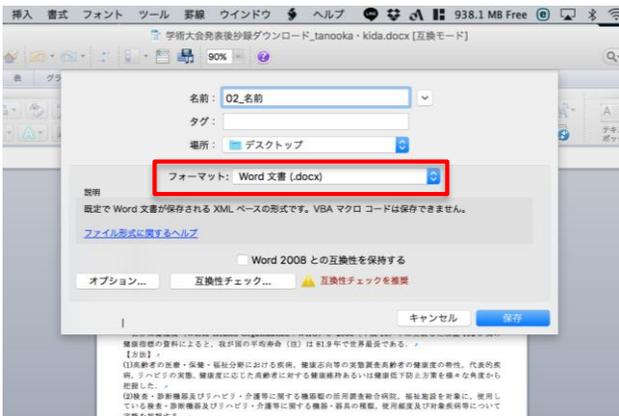


WordからPDF変換する方法

① 文書が出来ましたら、「ファイル」→「名前を付けて保存」をクリックします。

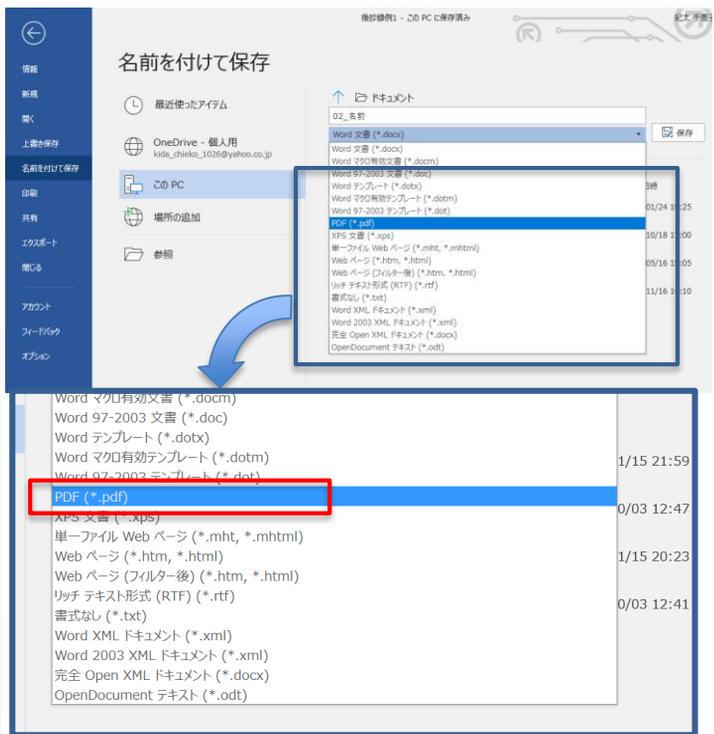
【Mac】

②-1 下記のような画面になったら、「フォーマット」をクリックします。

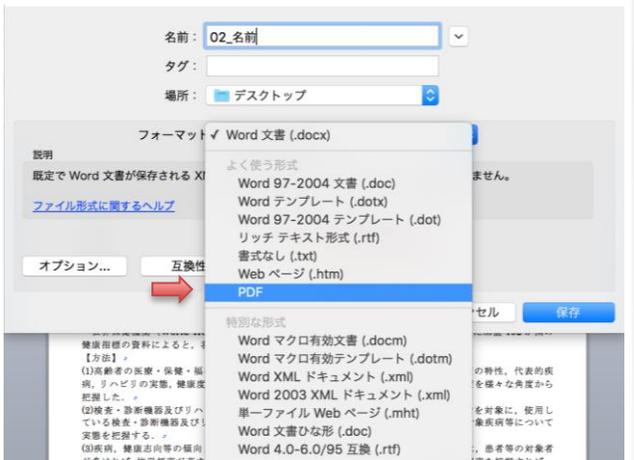


【Windows】

② 保存形式の選択枝から「PDF」を選択し、保存します。



②-2 保存形式の選択枝から「PDF」を選択し、保存します。



③ 保存されたPDFを確認して、投稿に進む。

02 日本人の健康の状況
— 国際比較に見る日本人の健康 —
Accuracy Improvement of Annulus Size Measurement in Transcatheter Aortic Replacement
J1大阪大学医学部附属病院 心臓血管外科 伊藤直樹
O中村幸夫, 川原謙司, 藤原健太郎, 伊藤直樹*

【目的】
世界保健機関 (World Health Organization : WHO) が 2003 (平成 15) 年に発表した加盟 192 国別の健康指標の資料によると、我が国の平均寿命 (E) は 81.9 年で世界最長である。

【背景】
(1)高齢者の医療・保健・福祉分野における疾病、健康志向等の実態調査高齢者の健康度の特性、代表的疾病、リハビリの実態、健康度に応じた高齢者に対する健康維持あるいは健康低下防止方法を種々な角度から把握した。(2)検査・診断機器及びリハビリ・介護等に関する機器類の活用調査総合病院、福祉施設を対象に、使用している検査・診断機器及びリハビリ・介護等に関する機器・器具の種類、使用頻度及び対象疾病等について実態を把握する。

(3)疾病、健康志向等の傾向と検査・診断等機器類との相関度分析 検査・診断等機器類は、患者等の対象者が多ければ、使用頻度が高まることと広く考えられる。従って、検査等と機器類との相関度を把握すれば、疾病等の傾向を分析することによって機器類の今後の変化を予測できる。

【結果】
我が国の保健医療対策が高い成果を上げている一方で、新たな健康課題も出現してきている。例えば特定の病態により多発する食品の安全上の問題、認知症の発症もたらした認知症高齢者の増加、経済の低迷等による所得格差への対応などである。また、従来のある健康であるが、食生活、身体活動、運動等の生活習慣によって生じた生活習慣病の増加が国民の大きな関心事となっている。さらに、近年の医療技術の顕著な発展は治療成績の上昇と疾病の克服に大きく貢献してきたが、技術の複雑化と多様化は医療従事者の負担も増大させ、安全面への取組みの重要性が顕著している。加えて、国民の健康への関心は、寿命の長さだけでなく、生活の質に配慮したいという「健康寿命」にも向けられるようになり、健康増進に関する商品やサービスの開発が加速しており、その数と量を確保することも課題になってきている。このよう状況を踏まえ、健康に関する多くの制度が見直されつつある。

【結論】
健康リスクを強制的に低減するための施策を行うには、想定する各種の健康リスクの大きさを把握することが必要である。このため、様々な手法を用いて健康リスクの大きさを定量化することが求められている。現在、健康リスク (EHR) 評価を定量的に実施、医療費、死亡率、生命損失年数、障害調整年数、経済的損失年数等健康リスクの比較に用いられている。

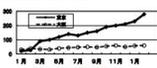


Fig.2 東京と大阪の比較

